

NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

ORMZ ニュース第 67 号 (H29.2.22)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7 (メール info@ormz.or.jp) 文責：日高良雄



はじめに 2月も下旬となりました。冬の寒さと春の暖かさが交互に訪れ、体調管理が難しいですね。インフルエンザの流行もピークを越えたようですが、花粉症等もあり、皆様どうぞご自愛ください。

今回は、通常総会で承認された28年の活動報告、決算、そして、29年の活動計画、予算等についてお伝えします。

会の経過報告

- ・平成29年1月31日、理事会を開催し、28事業年の活動報告、決算及び29事業年の活動計画案、予算案について協議しました。
- ・理事会を受け、平成28年2月18日、通常総会を開催し、28年活動報告、決算、29年活動計画案、予算案について協議し、原案通り承認されました。
- ・総会終了を受け20日、宮崎市に活動実績報告書を、認定NPO法人の所轄庁である宮崎県に役員報酬規定等提出書の届け出を、そして法務局に資産の総額の変更届けを行いました。

28事業年の活動報告、決算及び29事業年活動計画、予算について

28年事業活動報告 (詳細はホームページ「<http://ormz.or.jp/>」で)

- ① 巡回診療事業をルアノ地区で月2回、12月に同地区サンダラ村で1回の計25回、ムワンタヤ地区で月1回、計11回 (ヘルスポスト開業により11月で終了)、ニャンカンガ地区で月1回 (3月・6月は患者数が多く2回)、計14回の合計50回実施した。
- ② 巡回診療スタッフの準医師ムレタ氏の住むチボンボ郡ルカタ地区に、抗マラリア薬、マラリア検査キット、解熱剤などを提供、ムレタ氏がコミュニティヘルスワーカー (CHW) とともに診療を実施。同じくスタッフであるシバンダ氏の住むモンボシ地区でマラリアによる死者が8名と相次いだことから、管轄ヘルスセンターの許可をもらい、シバンダ氏とCHWでマラリア検査を実施し、抗マラリア薬を提供、投与した。
- ③ ニャンカンガ地区に患者ファイルを保管する倉庫兼診察室、会議室として機能できる建物が完成した。また、ルアノ地区に、各種測定・検査施設として、屋根の取り付け・床面の整備などをし、建物を完成させると共に患者の待合所としてのベランダが完成した。
- ④ 11名のCHW (ルアノ4名、ニャンカンガ3名、ルカタ2名、モンボシ2名) に対して、2泊3日のリフレッシュ研修を12月に実施した。
- ⑤ 6月に、3地区のCHWやネイバーフッドヘルスコミッティ (NHC) のメンバーに対して、マラリア、下痢、妊婦健診、家族計画などの基礎知識、巡回診療時の注意事項に関するセミナーを開催し、彼らの日々の活動に対してのフィードバックを行った。ルカタ地区では近隣のヘルスセンタースタッフが講師となり、同様のセミナーを開催。また、11月には、ルアノ・ニャンカンガ地区で、CHWやNHCのメンバーに対して、マラリア・下痢の予防、トイレ建設 (環境衛生技術者が講義) などについて講義すると共に、ニャンカンガ地区では井戸掘削について、ルアノ地区では、マラリア蚊殺虫剤噴霧活動に関して各々協議した。

- ⑥ 4～5月、ルカタ地区を含む4地区で地域住民に対して、マラリア予防と下痢予防に関する保健衛生啓発活動を実施し、蚊帳を配布した。ルアノでは巡回診療実施場所からさらに奥に入ったサパニ村で実施。
- ⑦ CHWやNHCのメンバーの活動を資金面でも支援するため、彼らの収入創出活動を実施した。なおルアノ地区ではNHC副委員長に問題があり、石けん販売は一時中止とした。
- ⑧ ルアノ地区に2基、ニャンカンガ地区に2基の計4基井戸を建設した。ニャンカンガの1基は水質検査上透明度にやや問題があり、再検査の予定。
- ⑨ 環境衛生技術者の指導のもと、ルアノ・ニャンカンガ地区にモデルとなる清潔なトイレを建設中である(12月末にはまだ完成していない)。
- ⑩ 噴霧ポンプを郡保健局から借り、2人の研修を受けた噴霧者がルアノ地区の2人に指導し、計4人の噴霧者により、6月にルアノ地区サパニ、サンドラ村で32家族、54戸にマラリア蚊殺虫剤噴霧を実施した。その効果が確認されたので、11月にルアノ全村とその近辺の村合計229家族、406戸で噴霧を実施した。
- ⑪ 三重大、藤田保健衛生大学、大阪大学の医学生、医師が巡回診療活動を見学した。
- ⑫ 広報活動として、活動内容を伝えるニュースを計15回送信すると共に適宜ホームページの更新を実施。
- ⑬ 宮崎公立大学、愛知学院大学、茨城県常陸大宮市、自治医科大学で活動を紹介する講演をそれぞれ行った。

*地区別巡回診療のまとめ

地 区 名	ルアノ地区	ムワンタヤ地区	ニャンカンガ地区	サンドラ地区	総 計
新受付患者数	635	644	882	101	2262
診療患者数	1904	1419	2069	94	5486
5歳未満児数	616	539	647	22	1824
疾患別患者数					
マラリア(疑い含む)	491	145	654	29	1319
マラリア検査陽性数/総数	473/1399	136/819	634/1688	28/88	1271/3994
5歳未満児マラリア検査陽性数	116/460	25/304	188/520	7/18	336/1302
急性胃腸炎/下痢症	160	179	166	16	521
気道感染症	619	663	808	19	2109
原因のはっきりしない発熱	31	25	10	2	68
胃炎(潰瘍疑い含む)	101	76	146	8	331
結膜炎	150	129	123	12	414
頭痛	44	53	58	10	165
腰痛などのからだの痛み	185	176	205	17	583
う歯(口腔内疾患含む)	84	44	112	6	246
皮膚疾患	177	131	205	3	516
高血圧症	32	45	54	0	131
寄生虫疾患	26	41	65	7	139
ビルハジア	21	4	2	12	39
赤痢疑い	18	9	18	2	47

貧血	12	14	9	1	36
外傷	31	21	11	1	64
てんかん疑い	11	9	31	1	52
その他	210	143	146	7	506
妊産婦健診受診者数	257	209	25	8	499
家族計画受診者数	284	330	150	2	766
HIV/AIDS 検査陽性数/総数	27/273	15/115	6/146	1/8	49/542
巡回診療後の CHW によるマラリア検査陽性数/総数	2236/3453 +α	513/844	1790/2396	-	4539/6693 +α

注: 疾患別患者数には、マラリアを除き 12 月第 4 週の患者数が含まれていない

28 年事業決算報告

- ・ 経常収益 会費・賛助会費収入が 2,115,000 円(前年比約 200 万円減)、寄附金収入が 14,429,845 円(前年比約 400 万円減)、自販機募金や雑収入を含め総計 17,016,714 円となりました。
- ・ 経常費用 井戸建設費 2,571,563 円、薬剤購入費 2,651,560 円、車両維持経費(保険含む) 1,657,959 円、旅費交通費(現地ガソリン代やザンビア渡航費含む) 1,363,011 円、啓発・研修費 230,196 円、人件費(現地での雇用、臨時雇いあげ費) 1,656,110 円などで、総計 13,138,179 円でした。
- ・ この結果、当期正味財産として 3,878,535 円の増額となり繰越正味財産は 16,832,848 円(車 2 台を資産として含む)となりました。

29 年事業計画、予算

- ・ 平成 29 年もこれまで同様、巡回診療事業、地域住民への保健衛生啓発事業を継続実施します。
- ① 巡回診療は、ルアノ(月 2 回)、ルアノサンダラ村(月 1 回)、ニャンカンガ(月 1 回)の 3 地区で実施する(サンダラ村は雨季で通行が難しければ、一時中止とする)。
- ② ニャンカンガ地区で、患者の待合所としてのベランダを建設する。
- ③ コミュニティヘルスワーカー(CHW)のリフレresher研修とネイバーフッドヘルスコミッティ(NHC)メンバーを含めたセミナーを実施し、彼らの活動を支援すると共に、地域住民に対する保健衛生啓発活動、性病予防に関して若い男性の参加を促す目的でサッカー大会を実施する。
- ④ 講師がムレタ氏以外に確保できれば、ルアノ 3 名、サンダラ 3 名、ニャンカンガ 3 名の計 9 名、新たな CHW を養成する研修を開催する。
- ⑤ CHW 及び NHC の収入創出活動を実施する。
- ⑥ 安全な飲料水確保のための深井戸を、ルアノ地区に 2 基、ルカタ地区に 1 基の 3 基程度建設する。
- ⑦ ルアノ・ニャンカンガ地区でのトイレ建設を完成させる。また、ルアノ地区で学校の近くに清潔なトイレを建設し、地域に広げるモデルとする。
- ⑧ ルアノ地区全村に年 2 回マラリア蚊殺虫剤噴霧を実施する。新たにニャンカンガ地区のムボロマ村で噴霧を実施し、住民の協力が得られ、効果が確認できた際には全村で実施する可能性をさぐる。
- ・ 以上を事業計画とし、そのための予算として、経常収益を 10,005,000 円とし、井戸掘削 3 基、巡回診療の薬剤購入費、車両維持、旅費交通費、啓発・研修費等、経常費用を 14,806,868 円としています。なお、28 年に売却を予定していた車が売れず、29 年内に売却する予定です(予定価格は 28 年に予定し

ていた額の約半分 94 万円を想定)。

* 詳しくはホームページに掲載しておりますのでご覧下さい。(<http://ormz.or.jp/>)

現地活動報告 (ザンビアより芦田様から)

◎2月1日報告 サンダラ地区

同行者: ムレタさん、プリスカさん、シバンダさん

CHW: マーティンさん、バージニアさん、マチラさん

患者数: 190 人 マラリア検査数 190 人うち陽性 43 人、主な症状は尿路感染症、発熱など

重篤なケース: なし。

* 道路状況: かなり悪い。ストリームが深く、渡る場所が無いので、現地の人の助けを借り、上流に移動して渡る。帰路は、サンダラを 18 時に出発したが、バルーンがパンクするなどして、23 時にチサンバ着。車両は二手に分かれたが、空港側を使ったバルーンが再度パンクし、予備のタイヤが無いのでエレファントで迎えに行く。結局 3 時過ぎに帰宅。

* 蚊帳販売: 57 個売却し、56 個分回収。28 個の予約あり。残りは 2 個なので、また 100 個購入予定。

◎2月8日報告 ルアノ地区

同行者: ムレタさん、プリスカさん、シバンダさん、チブリカさん

CHW: マーティンさん、マチラさん、エバリンさん

患者数: 51 人雨が多すぎて来られない人もいる様子 マラリア検査数 51 人うち陽性 7 人 主な症状は発熱

重篤なケース: 16 歳の少年が滑った際に腕をうちかなり腫れている。チベンビまで搬送。病院で検査予定。

* 道路状況: かなり悪い。ただ当日は雨が降らなかったもので、なんとか往復することができた。この雨量が続くようであれば、来月のサンダラ訪問は見送る予定。

* 蚊帳販売: Lusaka Medi camp にて 100 個分の支払いを行うも、在庫 33 個のため、残りは後日受領予定。ルアノでは 30 個売れて、全額回収。1 月 11 日に売却した分の残額 115 クワチャのうち、100 クワチャ回収。

◎2月15日報告 ニャンカンガ地区

同行者: ムレタさん、エリザベスさん、シバンダさん、チブリカさん

CHW: モーゼスさん、エバリンさん、マチルダさん

患者数: 103 人 マラリア検査数 103 人うち陽性 8 人 主な症状は発熱、頭痛

重篤なケース: なし

* 道路状況: (ルサカはここ数日晴天ですが) ニャンカンガはまだ雨が降っていて、ムワプラヘルスポストからニャンカンガの道路状態が特に悪い。15 日は、往路ではバルーンのタイヤが穴にはまった。帰路は雨の中の走行となり、一つの川を渡るのに 30 分を要した。22 時帰宅。

* 蚊帳販売: なし。政府に支給されているので不要だと地区住民からテンボさんが聞いたとのこと。

* その他 倉庫兼診察室施設用の窓ガラスを今回引き渡す。井戸の水質チェックの件については、途中にある川が深く、当該井戸にアクセスできない。掘削会社も来たらしいが、川を渡れず引き返したよう。

編集後記

平成 28 事業年の総会を終了し、28 年の決算、29 年の活動計画、予算の承認を受けました。

今年は、新たな取組として若い男性を対象とした性病予防等の啓発としてサッカー大会に取り組むこととしてしています。皆様のご支援のもと、ザンビアの辺地の方々の保健医療の改善に役立つよう取り組んでいきたいと考えています。

以上

平成 29 年もご支援のほどどうぞよろしくお願い致します